

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年 3月

学校法人郷原学園 西原幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・「こころ」思いやりのある子ども（思いやり）
- ・「笑顔」自ら挨拶のできる子ども（挨拶）
- ・「楽しむ」自らあそびを楽しむ子ども（主体性）
- ・「しあわせ」自分のことは自分でできる子ども（自律）

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、令和5年5月8日より「5類感染症」になったことから、今まで通り気をつけて対策をしていくところと、見直しをすべきところを見分けて、歩んでいくことが必要となった

- ・手洗いうがいをしっかりし、各個人で体調管理に気をつける（園児、職員ともに）
- ・園行事の在り方を見直し「子どもたちの成長をまんなか」に置き、時間や人数などを工夫して、スムーズに参加、参観できるようにする
- ・園内研修、園外研修の充実を図り、今まで大切にしてきた保育感をや保育者の専門性を深めたりできるよう工夫する

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育目標	A	園の目標について、全ての職員が共感・理解できるよう、ホームページ作成などを通して、浸透するようにしている。
2	保育計画	A	子どもたちのやる気を引き出すためにはまずは保育者自身がやる気を持って取り組めることが大切だと考え、保育計画を立案できるように配慮している。
3	保育環境	B	令和5年度は、未満児さんの園舎の新設工事に伴い、園庭に限りが出てくるので、工夫しながら遊ぶ。
4	安全・防災	A	立ち合い避難訓練も行い、月に1度の避難訓練を、みんなで、充実したものになっているか、子どもたちも共に意識を高めていくことを目指している。
5	チーム保育・同僚性	A	年齢・経験年数が異なる幅広い保育者集団の中で、それぞれが尊敬の念を持ちながら接することを大切にしていきたい。正規職員もパートタイム勤務の職員も連携を図り、一つの保育に取り組めるようなチームを目指している。
6	保育内容・方法	A	園内研修などを多く取り入れ、客観的にその年齢の子どもたちの育ちを捉え、職員同士の良さに気づく時間を作っている。保育の後は、振り返りのための会議を開き、お互いの保育間を聴き、思いや考えを一緒に深められるようにしている。
7	保護者との関わり	A	連絡帳をアプリに移行することによって、写真などで日々の様子を伝え、可視化することを目指している。保育参観後の懇談会なども、積極的に取り入れて、直接、思いを伝えることを大切にしてきた
8	職務の遂行	B	職員全員で集まることは難しかったが、正規職員もパートタイム勤務の職員それぞれの会議を開くことで、互いの仕事の進み具合に気づくこともできた。

9	専門性の向上	B	チャレンジ保育研修の機会を多く設け、互いに知識を高めていく。互いの保育をみたり、発言したりすることで個々の専門性を高めていく。また、自分が知りたいことを「問い」という形で投げかけ、そのことについて、思いを深めていく時間も作っていった。
10	食育	A	給食の先生も力を貸してくれて、今までは取り組めなかったような活動も積極的に取り入れることができた。
11	子育て支援	A	月に一度の「未就園児教室」では、親子で触れ合う大切な時間を共に育んできた。2歳児は幼稚園への緩やかな移行を目指し、1歳児は母親支援を大切にしてきた。全職員で関わる時間も作ることができた。
12	預かり保育	A	異年齢の子どもたちに合わせた保育を見直したことで安心して預かり保育が展開できた。雨の日や、工事のため園庭に限りがある中での保育の工夫を皆で模索しながらの1年であった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	少しずつ、日常を取り戻しつつも、感染症についての価値観もさまざまであったため、一つひとつの行事を慎重に考えつつも、「やりたい保育」に積極的に挑戦した1年であった。園全体で子どもたちを感じさせたいことを話し合い、それに向かって、年齢にあった保育を考えていくことで、子どもたちも先生たちも、行事が終わるごとに、とても充実した顔つきになっていったように思う。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	行事について	1年を通して見通しを持って計画を早めにて、会議をしていく。職員・サポートともに連携を図り、準備もすすめていけるようにする。
2	清掃について	清掃も皆で取り組み、安全点検なども合わせてしていくようにする。
3	研修について	他園の保育を参観したり、同じ悩みや思いをもつ保育者と話し合ったりする時間を作ることで、自園の良さを知り、皆で、保育をアップデートできるようにする。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年五月、コロナウイルス感染症が「五類感染症」になり、世の中の活動も少しずつ緩和されてきたこの一年、幼稚園でも制限が緩和されたものと、まだまだコロナ前と同じようにはいかないという過渡期において、一つひとつの活動を丁寧に実施してくださり、大変ありがたく感じました。

また、コロナ前に比べ保護者の方も幼稚園に行く機会が減る中、アプリやホームページ等を通して矢野方が送ってくくださる写真や情報は安心感を与えてくださるとともに楽しみの一つであったと感じています。

「子ども達の成長をまななか」といって子ども達の心に目を向け、心温まるワクワクする保育を考えてくださることに大変感謝しております。

これからも西原幼稚園の先生方、子ども達にとって温かな日々となり続けよう心より願っております。ありがとうございます。

令和6年3月25日  
PTA副会長  
大内田美乃里

